第199回 ヘルスケア研修会

「就業形態多様化時代の健康管理」

派遣社員の健康管理をどうすすめるか
その現状と今後の課題をめぐってパネル

近年、就業形態の多様化にともない、正社員やパートタイム、契約社員、派遣社員など、さまざまな雇用形態の労働者が混在する職場が増加している。職域の健康管理についても、こうした新しい雇用形態時代に対応した健康づくり支援が求められている。このため、健康管理コンサルタントセンターと本会が主催する第199回ヘルスケア研修会では、「就業形態多様化時代の健康管理―新しい産業看護職の役割・健康の自己管理を支援する」をテーマに、パネルディスカッションを開催した。

パネルディスカッションでは、まず司会の飯島美世子オフィスいいじま代表（**写真**）が次のように述べた。「今回のパネルでは、とくに、派遣という就業形態に着目し、健康管理上の課題や問題点の共通認識を図り、新しい雇用形態に即した健康管理のあり方を模索したい」。

これを受けて、大原博ビッグアビリティ専務取締役・日本人材派遣協会副理事長が就労形態の多様化と労働者派遣事業の現状について報告を行った。

大原副理事長は、昨今の就労形態の多様化には産業構造や労働者の変化に加え、企業側のコストの最小化という背景があると述べ、「非正規雇用者に対するサポート制度として、税・社会保障の整備などの充実が求められる」と強調した。また、労働安全衛生法に定められている派遣元と派遣先の責任の所在については、「現実にそぐわない部分があるため、さらなる議論が必要である」と指摘した。

続いて、パソナ東京管理室衛生管理者の雨宮央氏が、派遣元の立場から派遣社員の健康管理の実際を報告した。

雨宮氏は、派遣社員に対する健康診断の流れや事後指導の取組みを紹介したうえで、「健康に対する意識をいかに高めるかが課題である」と述べ、「派遣社員が自己管理できるような健康相談や健康教育を行い、バックアップしていくことが求められる」と強調した。

また、三澤眞理子三澤労働衛生コンサルタント事務所長は、産業看護職としての豊富な経験をもとに報告を行った。三澤所長は、雇用形態別の健康管理の現状や問題点、課題などを示し、「多様な就労形態の労働者に対して一様に健康管理を行うことは難しい。業務や、安全配慮義務との関連性の有無などにより、関わりの程度を考え、一定の根拠のある対応をしていくことが重要である」とした。

その後の総合討論では、会場との活発な質疑応答や議論が展開された（**写真**）。

聴覚障害者のための胃X線検診車を導入

本会

聴覚に障害のある人や、高齢で聞こえが悪くなった人が医療サービスを受けようとすると、さまざまな困難がある。とくに胃のX線検査は、受診者から離れた場所から放射線技師が体位の向きを変える指示を出すので、その指示が聞こえないために検査を受けずにいる人が多い。

そこで、昭和大学衛生学教室と日立製作所が聴覚障害者向けの胃X線検査システムを共同開発した。システムには、手話アニメーションのソフトが組み込まれていて、放射線技師が専用パネルを操作して指示を出すと、受診者の顔の前と左右の3面に置かれたモニターに、体位の向きを指示する文字と手話とイラストが表示される。

本会では03年11月、東京都中途失聴・難聴者連盟に協力してこのシステムを導入した検診車による聴覚障害者の胃検診を実施した（本紙第371号既報）。これが大変好評だったことから、聴覚障害者向け胃検診車の導入を検討してきたが、今回、日本財団から1500万円の助成を受けてこの検診車（文字・手話表示機能付検診車＝**写真**）を購入した。

現在、全国には聴覚障害者は約30万人、軽度の難聴者も含めると数百万人にものぼると推定され、その約1割が東京都に在住・在勤している。そうした人たちに胃検診受診の機会を広げることができる、と本会関係者は語っている。

お知らせ

第200回ヘルスケア研修会

生と性の華麗なる調和
ホルモンと健康管理

3月30日(水) 午後3時～5時
東京・永田町「星陵会館」

第200回ヘルスケア研修会が3月30日（水）午後3時から5時まで、東京・永田町の「星陵会館」で開かれる。

「生と性の華麗なる調和―ホルモンと健康管理」をテーマに、川田純徳島大学名誉教授が講演する。司会は、健康管理コンサルタントの岡惺治氏。

会場の「星陵会館」は、地下鉄各線「永田町」「国会議事堂前」「溜池山王」「赤坂見附」駅下車、徒歩10分以内のところ。当日会場受付で参加費2000円を支払えばどなたでも入場できます。定員先着400名。

＊今回に限り、開始・終了時間を変更します。

甲状腺超音波カンファレンス開く

本会

内分泌代謝科部長（**写真中央**）を講師に招いて、甲状腺超音波カンファレンスを開いた。

カンファレンスには、日本超音波医学会の総合指導医でもある本会保健会館クリニックの小野良樹所長や、甲状腺専門外来を担当している百渓尚子内分泌部長、検査研究センターの技師らが参加して、熱心な症例検討が行われた。なお、このカンファレンスには、外部の医療機関の医師4人も参加した。

超音波（エコー）検査は、コンピュータの進化と共にその活用範囲や精度が急速に向上している検査法で、しかもからだに侵襲のない検査であるため、近年、臨床の場ばかりでなく、人間ドックやがん検診などでも欠かせない検査項目になってきている。

本会でも、超音波検査の実施数は年々増えており、腹部や乳房などの検査の他、本会保健会館クリニックに甲状腺専門外来を開設していることもあって、甲状腺の超音波検査を実施する機会が多くなってきている。

こうしたことから、甲状腺超音波検査に携わる検査技師の技術向上と精度管理を目的に、さる1月24日、甲状腺診断・治療の第一線で活躍している貴田岡正史公立昭和病院

人・往来

●ベトナム国別研修一行が本会を視察・研修

家族計画国際協力財団（ジョイセフ）では、1月17日から2月4日の18日間、ベトナム国におけるリプロダクティブヘルスの向上をめざし、関係者や指導的立場にある人材の育成を目的としたベトナム国別研修団10人を受け入れた。その一行が1月19日、本会を訪れ、本会の事業を研修した。

●国際寄生虫予防指導者セミナーの研修員が本会で研修

日本寄生虫予防会では、国際協力事業団（JICA）から委託を受けて、アジア、アフリカ、中南米からの研修員を受け入れて国際寄生虫予防指導者セミナーを実施している。第26回のセミナーに参加している研修員14人が2月8日、本会を訪れ、本会の活動や施設を研修・見学したほか、寄生虫検査の実技実習を行った。

FUKUDA DENSHI
医療と健康をつなぐテクノロジー
学童検診業務の必携システム！
ECP-4641
医療用具承認番号：20800BZZ00230000
●学童省略4誘導、標準12誘導、心音図を自動解析
●心電・心音図検査を60人以上／時間のスピードで処理
●不整脈自動延長機能を搭載（学校保健法施行規則に対応）
●内蔵フロッピー装置、ICカード装置で収録データの再生可能
●成人病検診にも活用可能
※解析プログラムは学校心臓検診二次検診対象者抽出ガイドラインに対応
※検診業務に対応する専用パネル採用
フクダ電子ホームページ http://www.fukuda.co.jp
お客様窓口 ☎(03)5802-6600
●医用電子機器の総合メーカー
フクダ電子株式会社®
本社 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03)3815-2121(代) 〒113-8483